

# 多様な学びの場に関するアンケート調査の結果について

## 1 調査目的

現在の不登校児童生徒への支援に関する施策の周知状況をはかるとともに、多様な学びの機会や安心して学べる環境づくりに向けて検討を進める際の資料とする。

## 2 調査概要

### (1) 調査期間

令和6年6月14日（金）から7月3日（水）まで

### (2) 調査対象

小学校5～中学校3年生、義務教育学校5～9年生

小学校1～中学校3年生、義務教育学校1～9年生の保護者

### (3) 調査方法

児童生徒はChromebook、保護者はGoogleフォームにて回答

### (4) 回答数及び回答割合

区分（児童生徒・保護者）	調査対象数	回答数	回答割合	
児童生徒	小学校5～中学校3年生 義務教育学校5～9年生	11,387	8,145	71.5%
	小学校5～6年生 義務教育学校5～6年生	4,473	3,562	79.6%
	中学校1～3年生 義務教育学校7～9年生	6,914	4,583	66.3%
	小学校1～中学校3年生 義務教育学校1～9年生	16,097	6,902	42.9%
保護者	小学校1～6年生 義務教育学校1～6年生	9,829	4,217	42.9%
	中学校1～3年生 義務教育学校7～9年生	6,268	2,685	42.8%

### 【参考:本アンケートの質問内容に係る不登校支援策】

- ◇わかば教室（センター教室）・・・学校に行きづらさを感じている子どもたちの居場所
- ◇わかば教室（サテライト教室）・・・学校に行きづらさを感じており、わかば（センター）教室に（公民館4ヶ所、少年自然の家） 通うのは遠いなどの理由がある子どもたちの居場所
- ◇校内サポートルーム・・・教室に入りづらさを感じている子どもたちの居場所（全中学校・小学校9校・義務教育学校）
- ◇アタック・ゴー・・・校外学習や体験活動ができるイベント
- ◇ピア・スペース・・・わかば教室での学びを体験できるイベント

### 【参考:文部科学省「学校基本調査—用語の解説—」より】

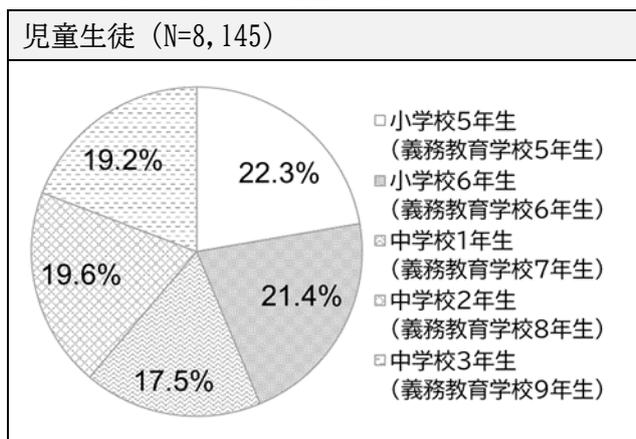
- ・長期欠席者とは、前年度間に30日間以上欠席した者。欠席は連続である必要はない。
- ・不登校とは、病気や経済的理由以外の何かしらの理由で、登校しない（できない）ことにより長期欠席した者。

### 3 回答者の属性【児童生徒・保護者】

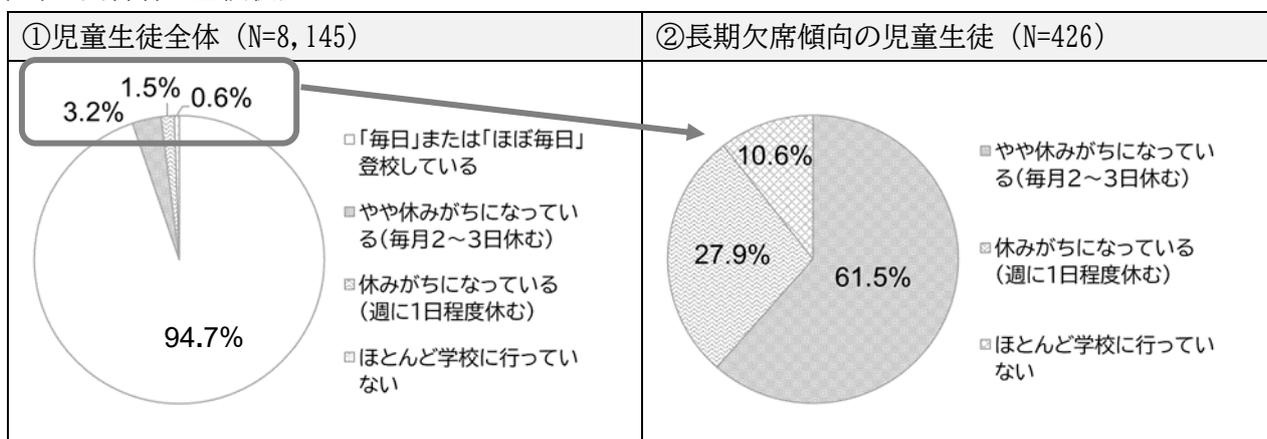
・集計表の見方：「N」は、質問に対する回答数。また、回答比率（％）は回答数（N）を 100％として算出している。

（「4、5 項目別アンケート結果」も同様）

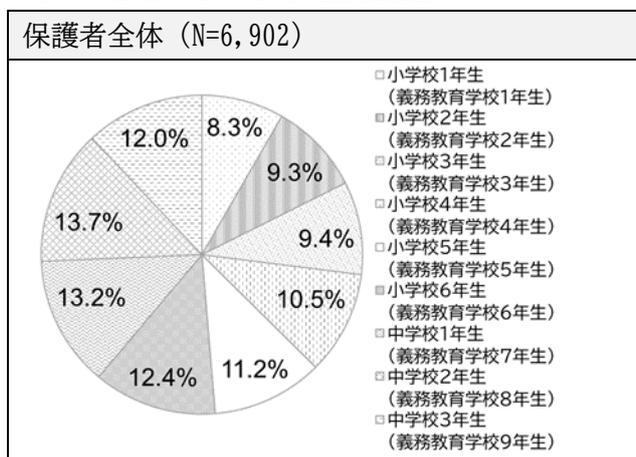
#### (1) 回答者の学年【児童生徒】



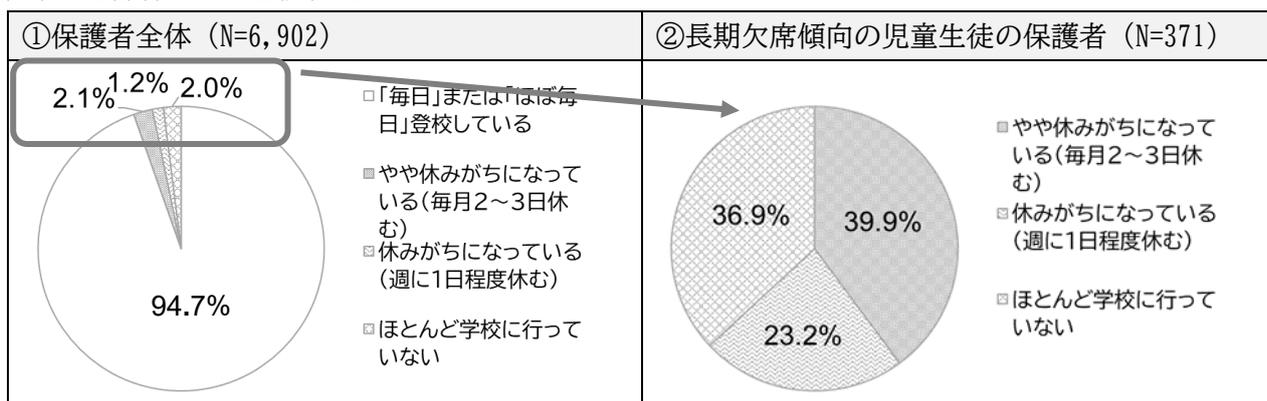
#### (2) 回答者の登校状況



#### (3) 回答者の子の学年【保護者】

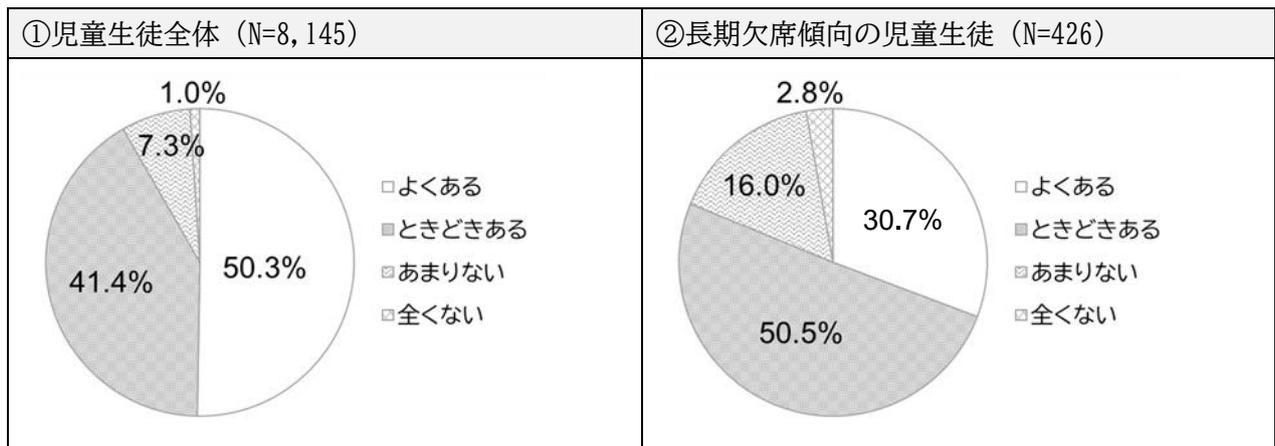


#### (4) 回答者の子の登校状況

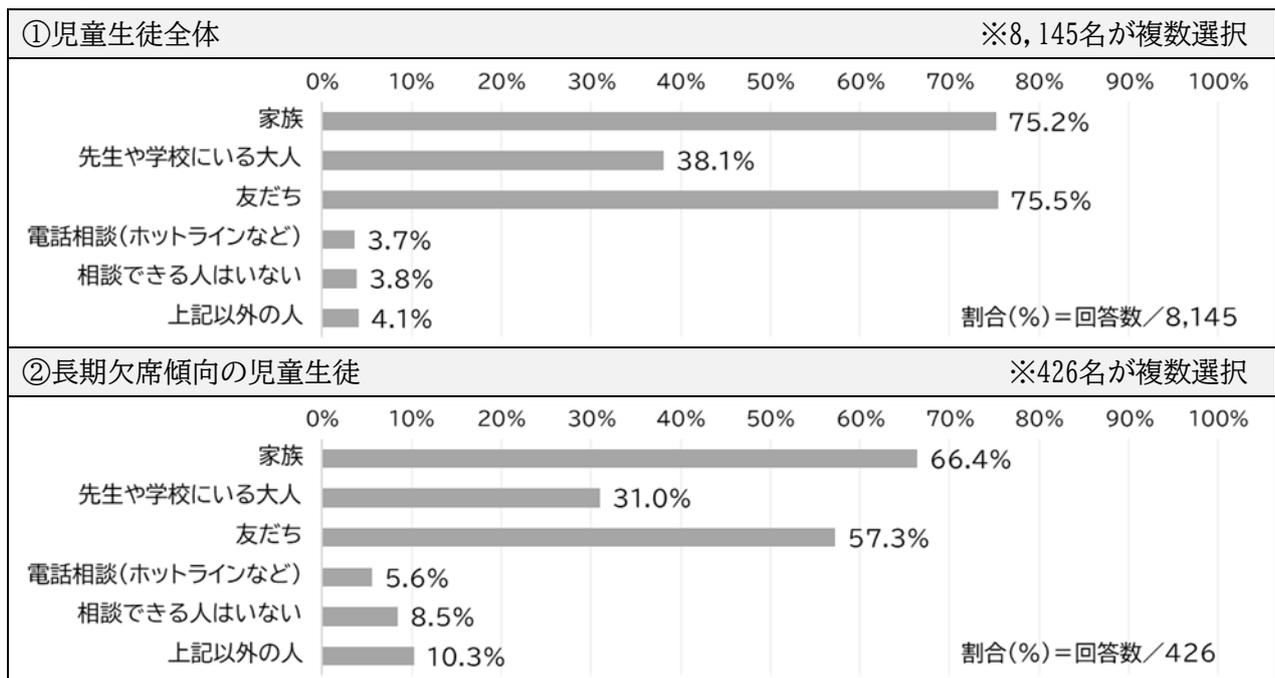


#### 4 項目別アンケート結果【児童生徒】

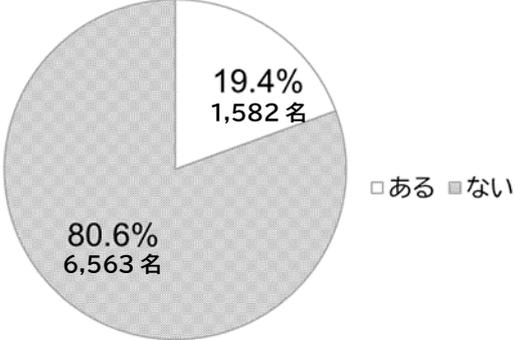
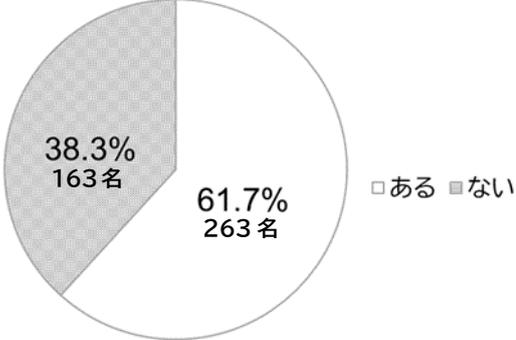
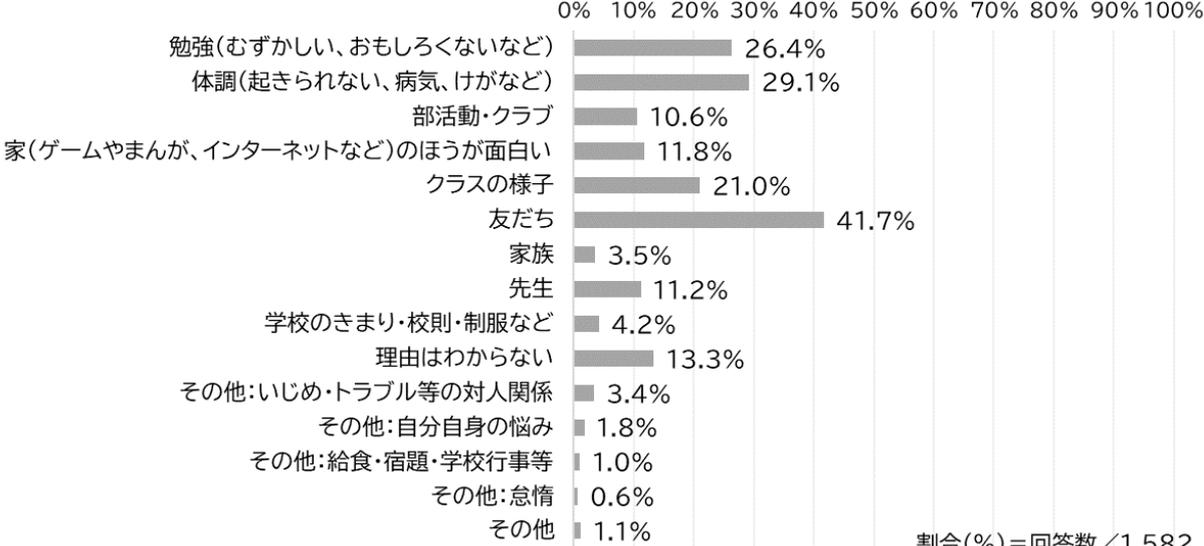
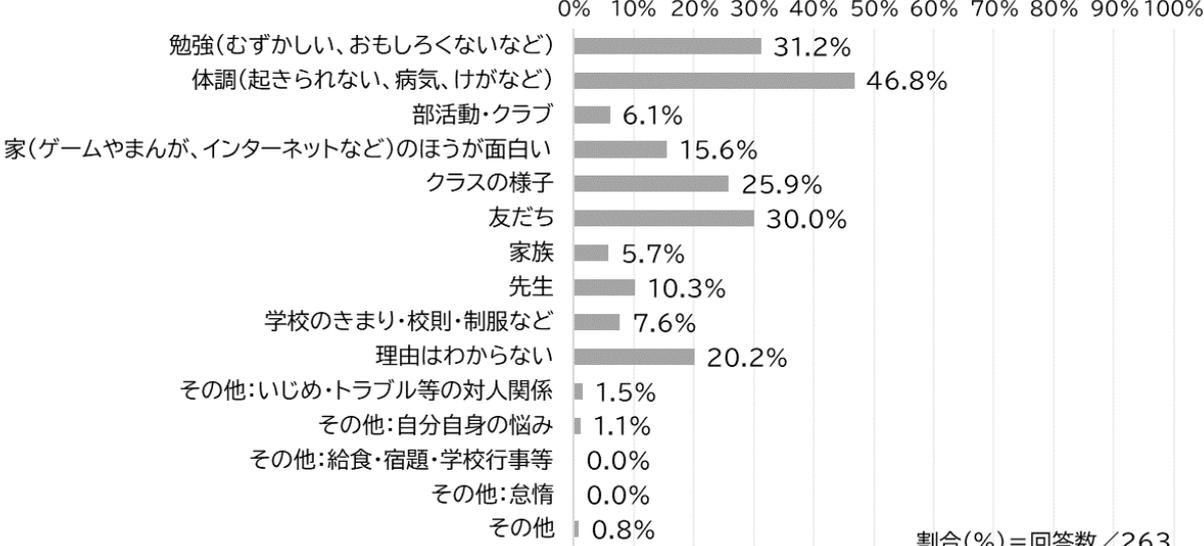
(1) 「ふだんの生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」の設問では、①児童生徒全体では「よくある・ときどきある」が91.7%に対して、②長期欠席傾向の児童生徒は、「よくある・ときどきある」が81.2%であった。



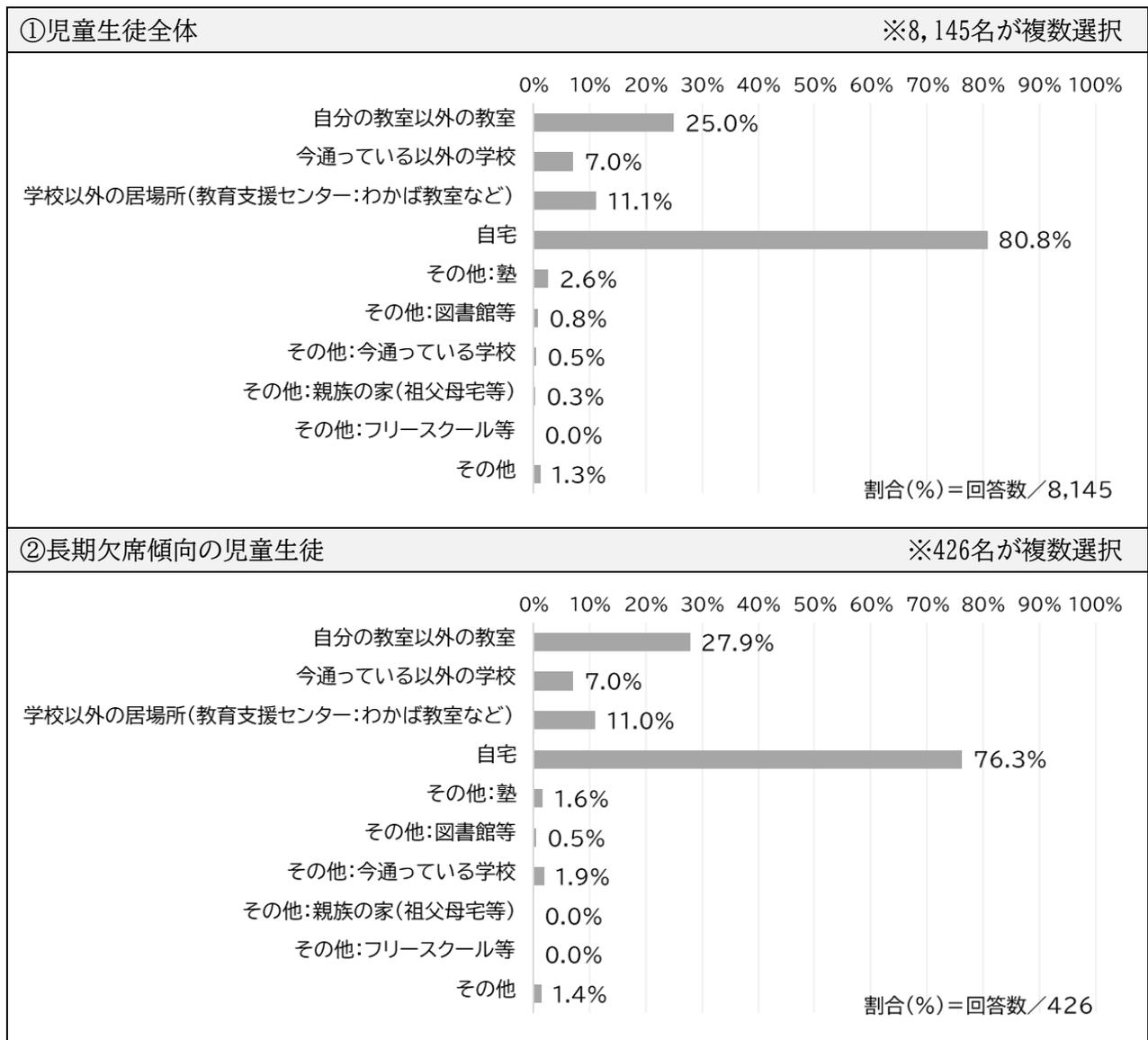
(2) 「こまりごとや不安があるときに、相談できる人はだれですか。」の設問では、①児童生徒全体と②長期欠席傾向の児童生徒ともに、相談できる相手として「家族」「友だち」、次いで「先生や学校にいる大人」の回答が多かった。また、①では「友だち」の回答が一番多かったのに対して、②では「家族」の回答が多かった。また、電話相談（ホットラインなど）は、①及び②ともに回答数は最も少なかった。



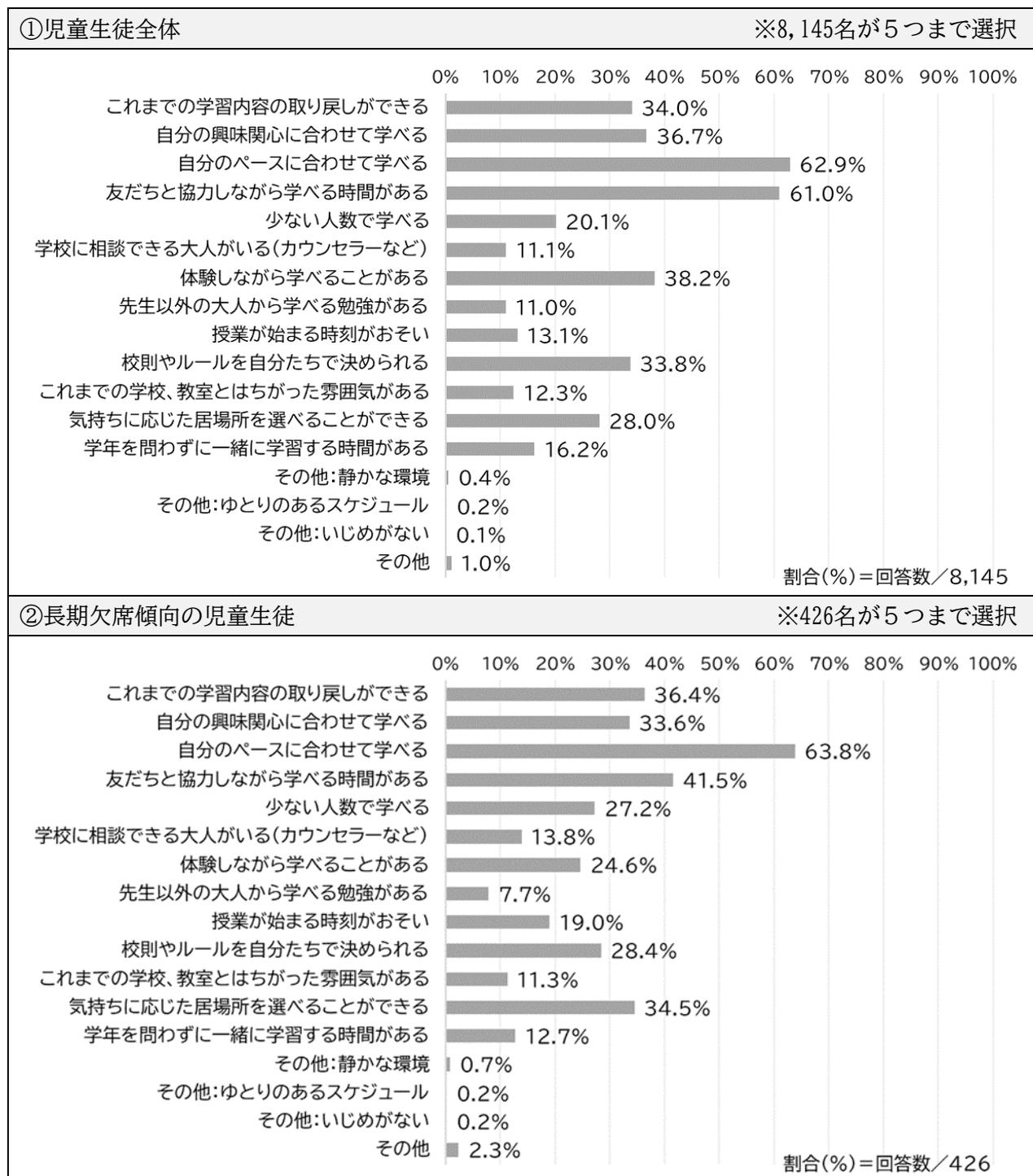
(3) 「これまで、登校しづらくなったことはありますか。」の設問では、③「ある」と回答した児童生徒全体の最も多い理由が「友だち」で、次いで「体調（起きられない、病気、けがなど）」「勉強（むずかしい、おもしろくないなど）」「クラスの様子」の順であった。一方、④「ある」と回答した長期欠席傾向の児童生徒の回答で最も多かったのは「体調（起きられない、病気、けがなど）」で、次いで「勉強（むずかしい、おもしろくないなど）」「友だち」「クラスの様子」の順であった。また、③と④ともに「理由はわからない」の回答も一定数あった。

①児童生徒全体 (N=8, 145)	②長期欠席傾向の児童生徒 (N=426)																																
 <p>19.4% 1,582名</p> <p>80.6% 6,563名</p> <p>□ある ■ない</p>	 <p>38.3% 163名</p> <p>61.7% 263名</p> <p>□ある ■ない</p>																																
<p>③「ある」と回答した理由（児童生徒全体） ※1,582名が3つまで選択</p>																																	
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>勉強(むずかしい、おもしろくないなど)</td><td>26.4%</td></tr> <tr><td>体調(起きられない、病気、けがなど)</td><td>29.1%</td></tr> <tr><td>部活動・クラブ</td><td>10.6%</td></tr> <tr><td>家(ゲームやまんが、インターネットなど)のほう面白い</td><td>11.8%</td></tr> <tr><td>クラスの様子</td><td>21.0%</td></tr> <tr><td>友だち</td><td>41.7%</td></tr> <tr><td>家族</td><td>3.5%</td></tr> <tr><td>先生</td><td>11.2%</td></tr> <tr><td>学校のきまり・校則・制服など</td><td>4.2%</td></tr> <tr><td>理由はわからない</td><td>13.3%</td></tr> <tr><td>その他:いじめ・トラブル等の対人関係</td><td>3.4%</td></tr> <tr><td>その他:自分自身の悩み</td><td>1.8%</td></tr> <tr><td>その他:給食・宿題・学校行事等</td><td>1.0%</td></tr> <tr><td>その他:怠惰</td><td>0.6%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>1.1%</td></tr> </tbody> </table> <p>割合(%)=回答数/1,582</p>		理由	割合 (%)	勉強(むずかしい、おもしろくないなど)	26.4%	体調(起きられない、病気、けがなど)	29.1%	部活動・クラブ	10.6%	家(ゲームやまんが、インターネットなど)のほう面白い	11.8%	クラスの様子	21.0%	友だち	41.7%	家族	3.5%	先生	11.2%	学校のきまり・校則・制服など	4.2%	理由はわからない	13.3%	その他:いじめ・トラブル等の対人関係	3.4%	その他:自分自身の悩み	1.8%	その他:給食・宿題・学校行事等	1.0%	その他:怠惰	0.6%	その他	1.1%
理由	割合 (%)																																
勉強(むずかしい、おもしろくないなど)	26.4%																																
体調(起きられない、病気、けがなど)	29.1%																																
部活動・クラブ	10.6%																																
家(ゲームやまんが、インターネットなど)のほう面白い	11.8%																																
クラスの様子	21.0%																																
友だち	41.7%																																
家族	3.5%																																
先生	11.2%																																
学校のきまり・校則・制服など	4.2%																																
理由はわからない	13.3%																																
その他:いじめ・トラブル等の対人関係	3.4%																																
その他:自分自身の悩み	1.8%																																
その他:給食・宿題・学校行事等	1.0%																																
その他:怠惰	0.6%																																
その他	1.1%																																
<p>④「ある」と回答した理由（長期欠席傾向の児童生徒） ※263名が3つまで選択</p>																																	
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>勉強(むずかしい、おもしろくないなど)</td><td>31.2%</td></tr> <tr><td>体調(起きられない、病気、けがなど)</td><td>46.8%</td></tr> <tr><td>部活動・クラブ</td><td>6.1%</td></tr> <tr><td>家(ゲームやまんが、インターネットなど)のほう面白い</td><td>15.6%</td></tr> <tr><td>クラスの様子</td><td>25.9%</td></tr> <tr><td>友だち</td><td>30.0%</td></tr> <tr><td>家族</td><td>5.7%</td></tr> <tr><td>先生</td><td>10.3%</td></tr> <tr><td>学校のきまり・校則・制服など</td><td>7.6%</td></tr> <tr><td>理由はわからない</td><td>20.2%</td></tr> <tr><td>その他:いじめ・トラブル等の対人関係</td><td>1.5%</td></tr> <tr><td>その他:自分自身の悩み</td><td>1.1%</td></tr> <tr><td>その他:給食・宿題・学校行事等</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他:怠惰</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>0.8%</td></tr> </tbody> </table> <p>割合(%)=回答数/263</p>		理由	割合 (%)	勉強(むずかしい、おもしろくないなど)	31.2%	体調(起きられない、病気、けがなど)	46.8%	部活動・クラブ	6.1%	家(ゲームやまんが、インターネットなど)のほう面白い	15.6%	クラスの様子	25.9%	友だち	30.0%	家族	5.7%	先生	10.3%	学校のきまり・校則・制服など	7.6%	理由はわからない	20.2%	その他:いじめ・トラブル等の対人関係	1.5%	その他:自分自身の悩み	1.1%	その他:給食・宿題・学校行事等	0.0%	その他:怠惰	0.0%	その他	0.8%
理由	割合 (%)																																
勉強(むずかしい、おもしろくないなど)	31.2%																																
体調(起きられない、病気、けがなど)	46.8%																																
部活動・クラブ	6.1%																																
家(ゲームやまんが、インターネットなど)のほう面白い	15.6%																																
クラスの様子	25.9%																																
友だち	30.0%																																
家族	5.7%																																
先生	10.3%																																
学校のきまり・校則・制服など	7.6%																																
理由はわからない	20.2%																																
その他:いじめ・トラブル等の対人関係	1.5%																																
その他:自分自身の悩み	1.1%																																
その他:給食・宿題・学校行事等	0.0%																																
その他:怠惰	0.0%																																
その他	0.8%																																

(4) 「もし、登校しづらくなったとき、どんなところで勉強をしたいですか。」の設問では、①児童生徒全体と②長期欠席傾向の児童生徒ともに、「自宅」の回答が最も多く、次いで、「自分の教室以外の教室」「学校以外の居場所（教育支援センター：わかば教室など）」「今通っている以外の学校」の順であった。

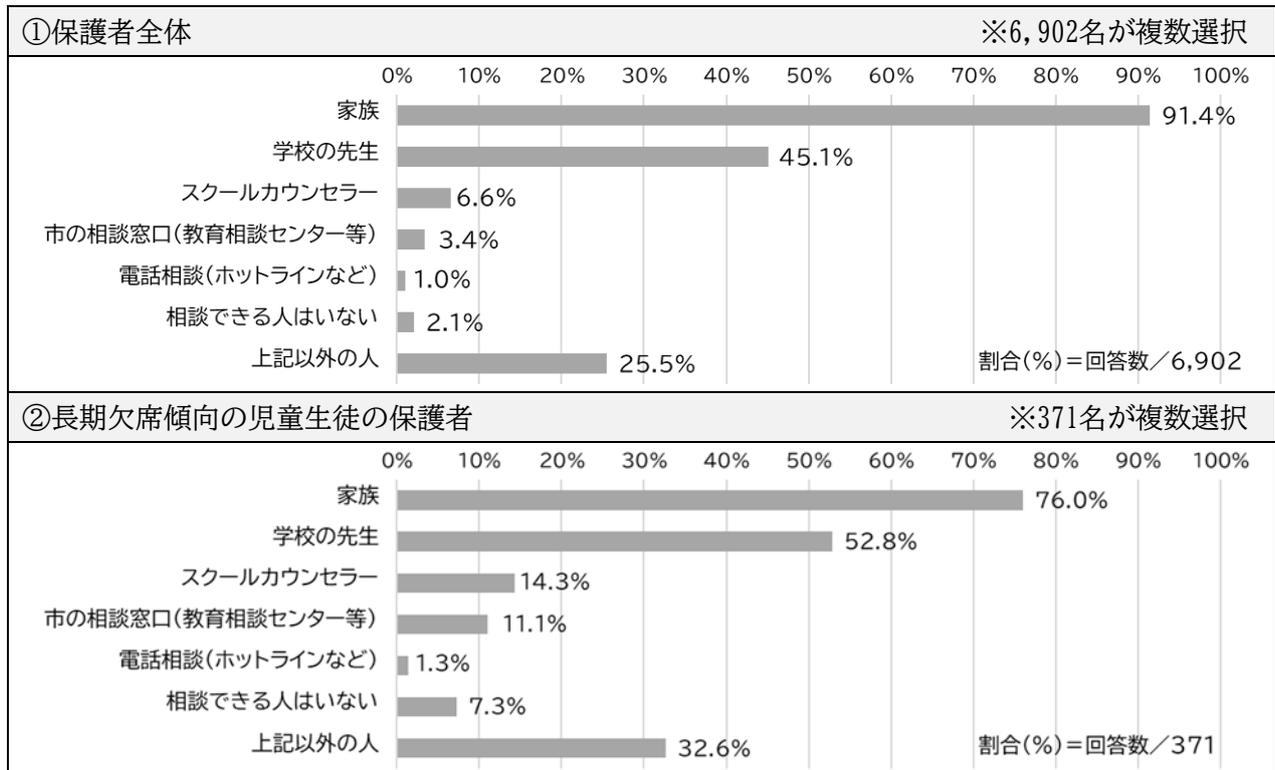


(5) 「あなたが楽しく安心して学習するために、どんな環境を求めますか。」の設問では、①児童生徒全体と②長期欠席傾向の児童生徒ともに、「自分のペースに合わせて学べる」という回答が最も多かった。また、①では「友だちと協力しながら学べる時間がある」「体験しながら学べることもある」「自分の興味関心に合わせて学べる」と続くのに対して、②は「友だちと協力しながら学べる時間がある」「これまでの学習内容の取り戻しができる」「気持ちに応じた居場所を選べる」と続いた。また、「友だちと協力しながら学べる時間がある」では①②の割合に差があった。

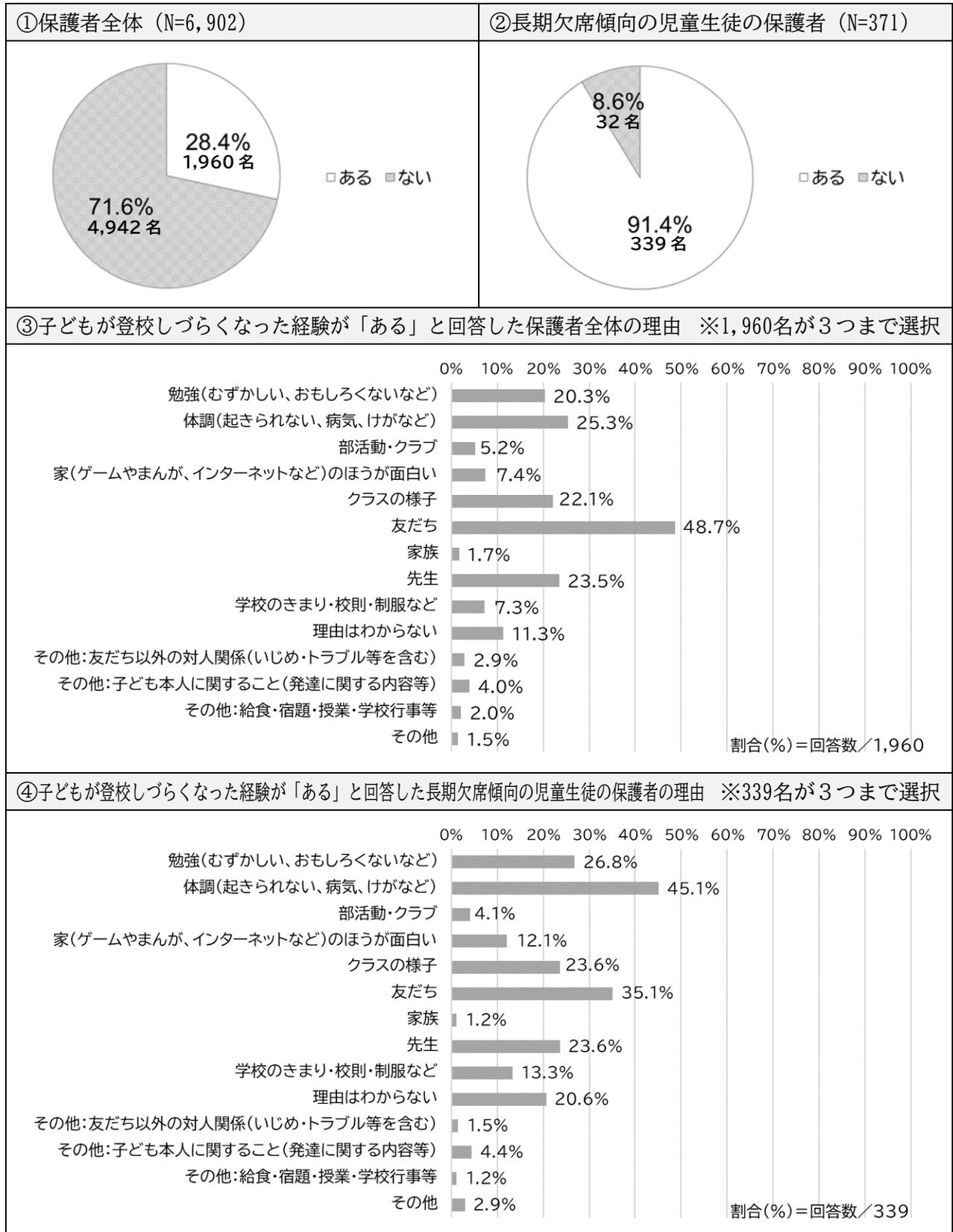


## 5 項目別アンケート結果【保護者】

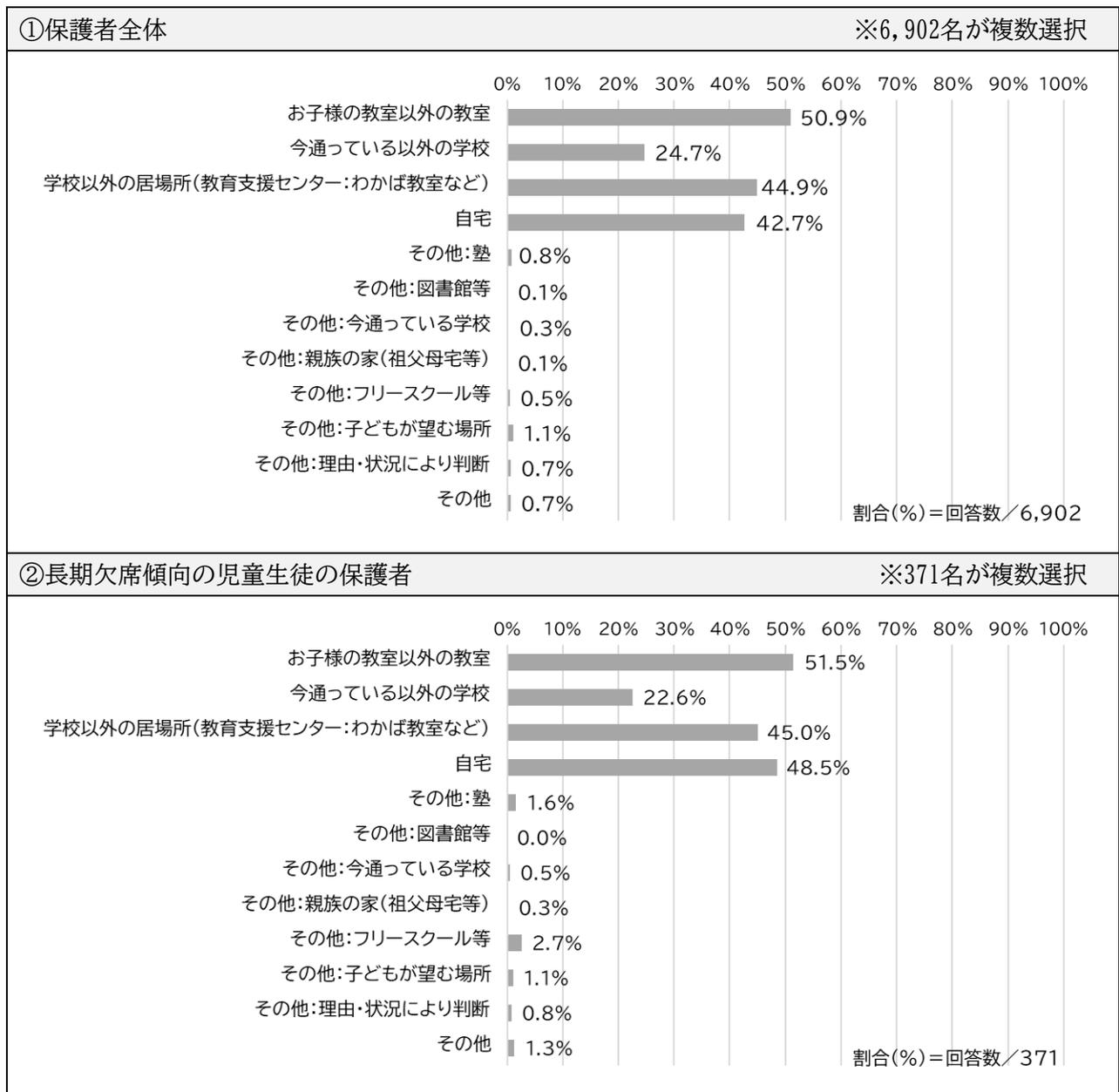
(1) 「お子様が困りごとや不安があるときに、あなたが相談できる人はだれですか。」の設問では、①保護者全体と②長期欠席傾向の児童生徒の保護者ともに、相談できる相手として「家族」の回答が最も多く、次いで「学校の先生」「スクールカウンセラー」が多かった。また、①②ともに「相談できる人はいない」の回答もあった。



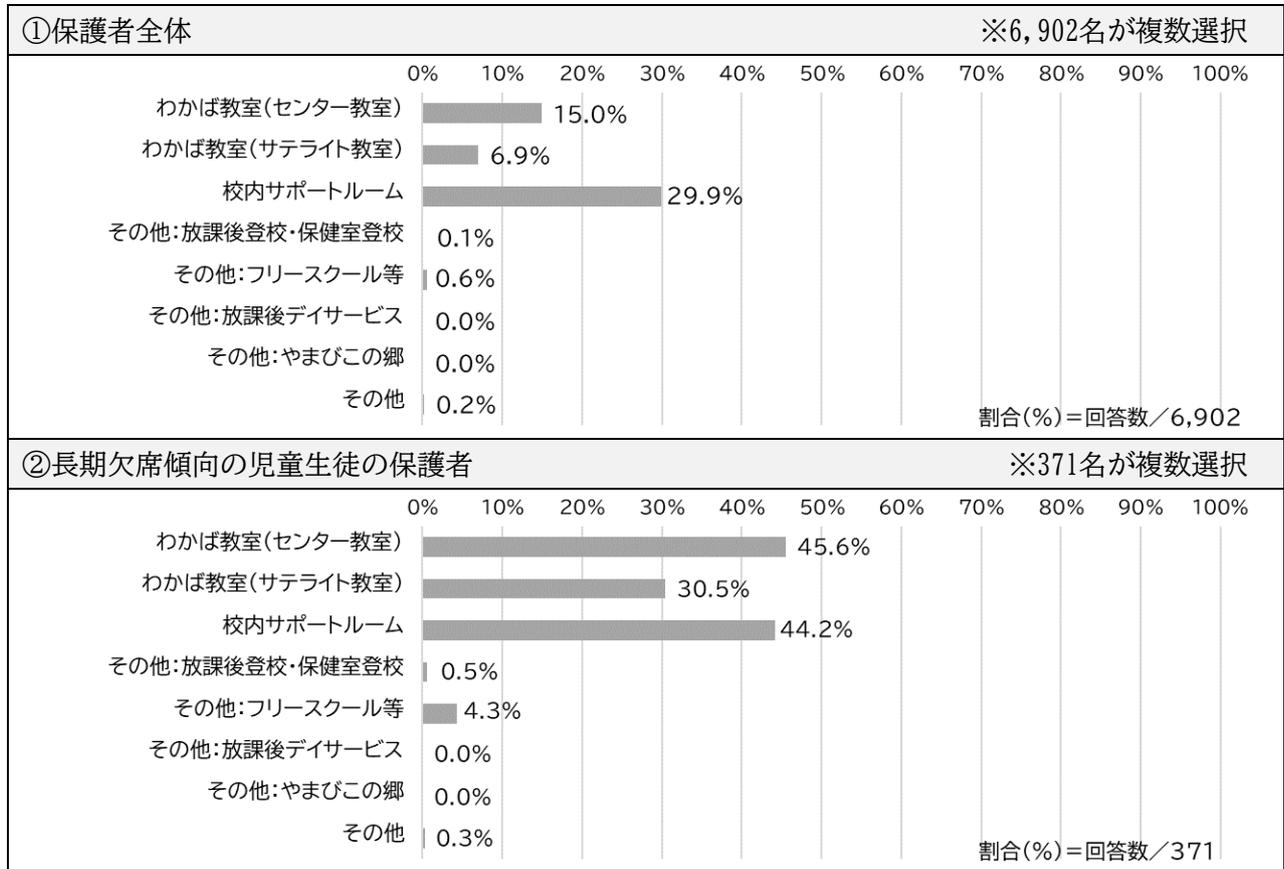
(2) 「これまで、お子様が登校しづらくなったことはありますか。」の設問では、③子どもが登校しづらくなった経験が「ある」と回答した保護者全体の理由の回答で最も多い理由が「友だち」で「体調(起きられない、病気、けがなど)」「先生」「クラスの様子」と続くのに対して、④子どもが登校しづらくなった経験が「ある」と回答した長期欠席傾向の児童生徒の保護者の理由の回答で最も多い理由が「体調(起きられない、病気、けがなど)」で「友だち」「勉強(むずかしい、おもしろくないなど)」「クラスの様子」「先生」の順であった。この結果は、P.4の長期欠席傾向の児童生徒の回答と同様の傾向が見られ、最も高いのは「体調(起きられない、病気、けがなど)」であった。また、「理由はわからない」も一定数見られた。



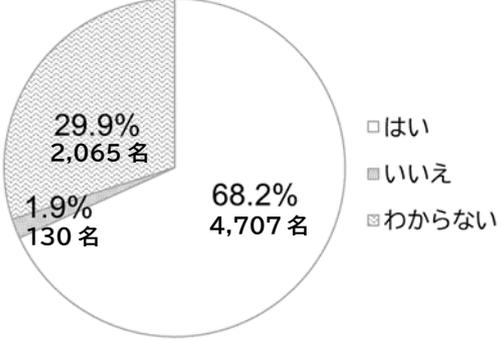
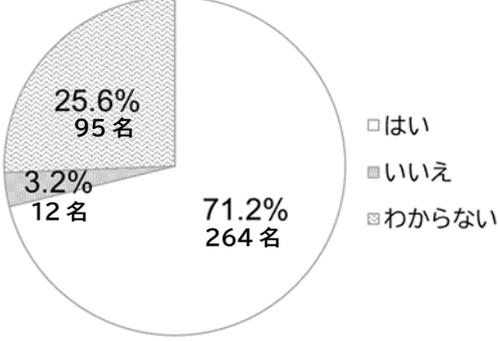
(3) 「もし、お子様が登校しづらくなったとき、どんなところで勉強をさせたいですか。」の設問では、①保護者全体と②長期欠席傾向の児童生徒の保護者ともに、「お子様の教室以外の教室」の回答が最も多く、次いで、「学校以外の居場所（教育支援センター：わかば教室など）」「自宅」が多かった。また、「今通っている以外の学校」の回答もあった。



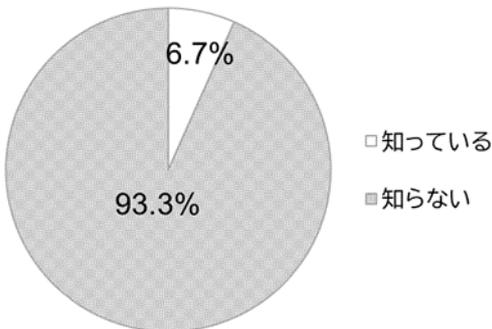
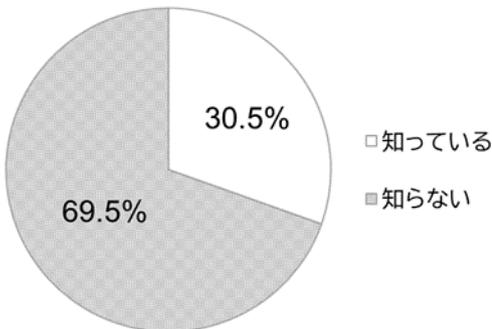
(4) 「お子様が教室に入りづらくなったときや登校しづらくなったときの居場所として知っているもの」の設問では、「校内サポートルーム」は①保護者全体では、6,902名中2,064名で約30%の認知度であった。②長期欠席傾向の児童生徒の保護者では371名中164名で約44%の認知度であった。なお、わかば教室(センター教室)は①では6,902名中1,033名で約15%、②では371名中169名で約46%の認知度であった。また、本アンケートの自由記述欄において、不登校支援策を知る機会になったとの意見も多く見られた。



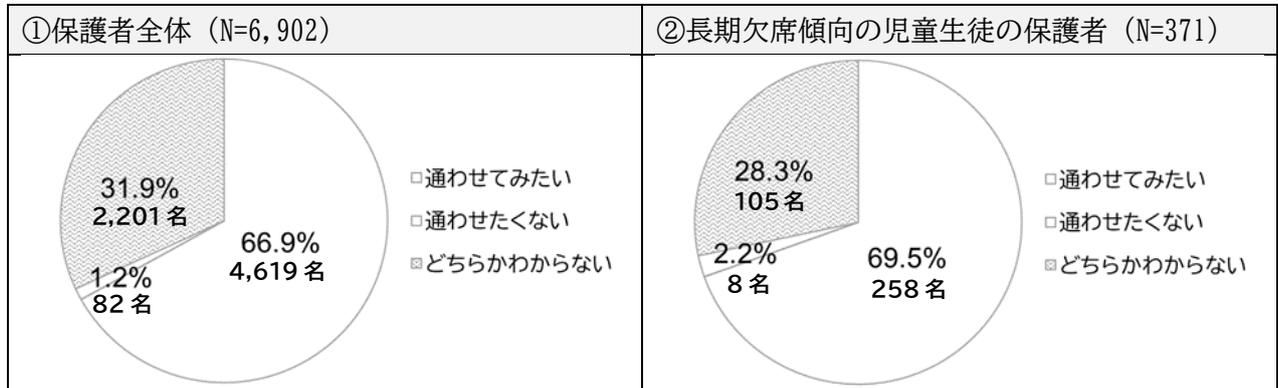
(5) 「もし、お子様が登校しづらくなったときや教室に入りづらくなったときに別の居場所があれば利用させたいですか。」の設問では、①保護者全体と②長期欠席傾向の児童生徒の保護者ともに「はい」が多く、次いで、「わからない」の回答が多かった。「いいえ」を選択した理由は、③「いいえ」を選択した理由（自由記述）にまとめている。

①保護者全体 (N=6,902)	②長期欠席傾向の児童生徒の保護者 (N=371)
	
<p>③「いいえ」を選択した理由（自由記述） <span style="float: right;">※130名中49名記述あり</span></p>	
<p>■ 理由として多かった記述例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まず、何が嫌なのか本人に確認して、できれば学校に通えるようにしたい。」</li> <li>・「小学校の時に不登校でも本人が他の学校の人とは関われないと行きたがらなかったの。」</li> <li>・「人との関わり方に悩んでいる時に、無理して他の施設を利用するつもりは無い。」</li> </ul> <p>■ その他の記述例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「余計に教室に戻りづらくなりそうだから。」</li> <li>・「そこ（別の居場所）に通ってもこれは内申点が取れないとか教室で授業受けないとだめとか別の教室に通うのも面談が必要とか面談があるなら行きたくないと拒否反応を起こす・・・。」</li> <li>・「特別な場所に通う、不登校の子というイメージを子供が嫌がるから。」</li> <li>・「みんなと一緒に学ぶことが全てではないから。」</li> </ul> <p>■ 傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困難な状況にも立ち向かい登校してほしいとの意見や、登校できなくなった理由があるので、無理していく必要がない、また、本人が利用したがるらない等の意見が多かった。</li> <li>・施設を利用しなくとも、インターネットの普及により、オンラインによる家庭学習を利用するとの意見も一定数見られた。</li> </ul>	

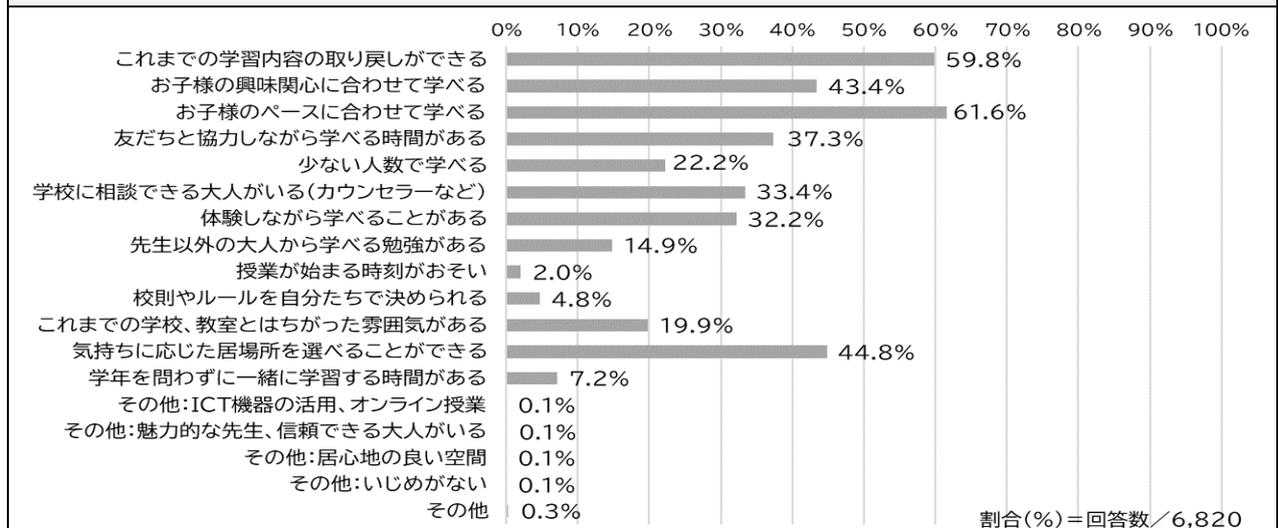
(6) 「「アタック・ゴー」や「ピア・スペース」という登校しづらさを感じている児童生徒が社会性や自立心を育成する小集団の体験活動を実施していることを知っていますか。」の設問では、①保護者全体と②長期欠席傾向の児童生徒の保護者を比較すると、②の方が「知っている」の割合が高いものの30.5%の周知状況であった。

①保護者全体 (N=6,902)	②長期欠席傾向の児童生徒の保護者 (N=371)
	

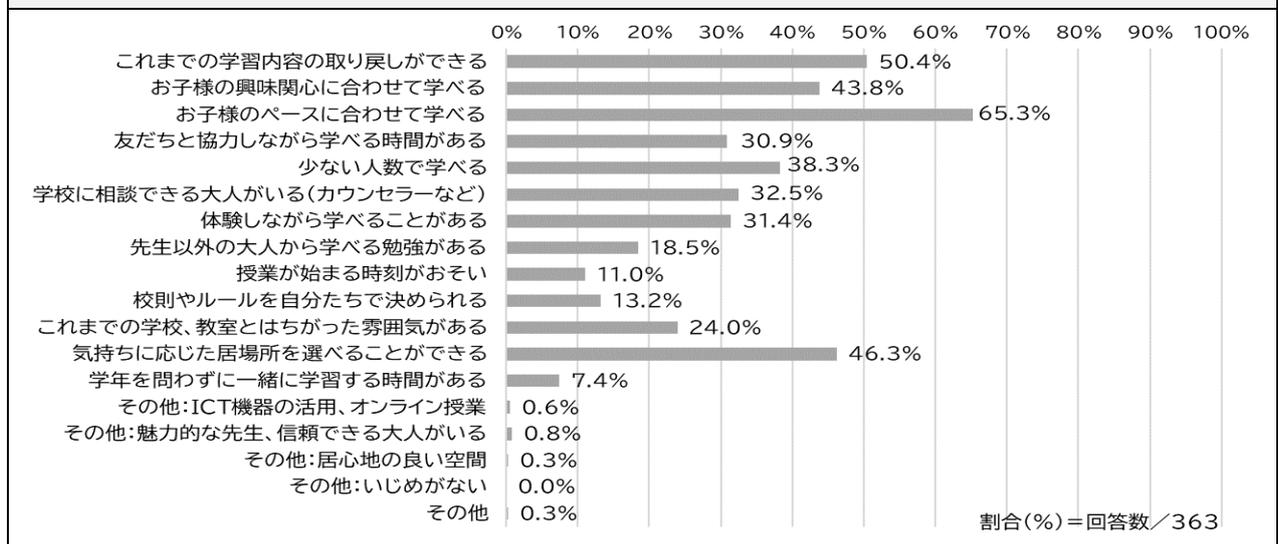
(7) 「今の学校とは別の場所に、もし、お子様が登校しづらくなった場合の学び直しができる学校(学びの多様化学校)があるとしたら通わせたいですか。」の設問では、①保護者全体と②長期欠席傾向の児童生徒の保護者ともに「通わせたい」の回答が多かった。また、③子どもが登校しづらくなったときに別の居場所に「通わせたい」「どちらかわからない」と回答した保護者全体の理由及び④子どもが登校しづらくなったときに別の居場所に「通わせたい」「どちらかわからない」と回答した長期欠席傾向の児童生徒の保護者の理由はともに、「お子様のペースに合わせて学べる」「これまでの学習内容の取り戻しができる」、「気持ちに応じた居場所を選べる」が多かった。①と②で「通わせたくない」を選択した理由は⑤にまとめている。



③子どもが登校しづらくなったときに別の居場所に「通わせたい」「どちらかわからない」と回答した保護者全体の理由 ※6,820名が5つまで選択



④子どもが登校しづらくなったときに別の居場所に「通わせたい」「どちらかわからない」と回答した長期欠席傾向の児童生徒の保護者の理由 ※363名が3つまで選択



## ■ 理由として多かった記述例

- ・「将来大人になった時のことを考えると、どんな理不尽な事が起こる場所でも生き抜く強さが欲しいため。」
- ・「色んな理由がありますが、今置かれている現状から逃げずまず立ち向かって行ってほしい。何かしら突破口が必ずあると思うから。それを先生や周りに手助けしてほしいと思う。」
- ・「学校に登校させたいから、一度居心地いい違う場所に行くと学校に戻りづらくなりそう。」

## ■ その他の記述例

- ・「学校が無理になっているのに、なかなかそこへ行くという方向にはならない。」
- ・「特別な場所に行くのを子供が嫌がるから。」
- ・「車の免許が無く自宅から遠かったら連れて行けないから、我が家には現実的に無理だから。」
- ・「学校と同じような環境は避けたい。」
- ・「地元で、友達がいる方が良い。」

## ■ 傾向

- ・困難な状況にも立ち向かい登校してほしいとの意見が最も多く、次いで、登校できなくなった理由があるので、無理していく必要がないとの意見が多数となっている。
- ・P.11の③と同様で、施設を利用しなくとも、インターネットの普及により、オンラインによる家庭学習を利用するとの意見も一定数見られた。

(8) 自由意見 (N=824)

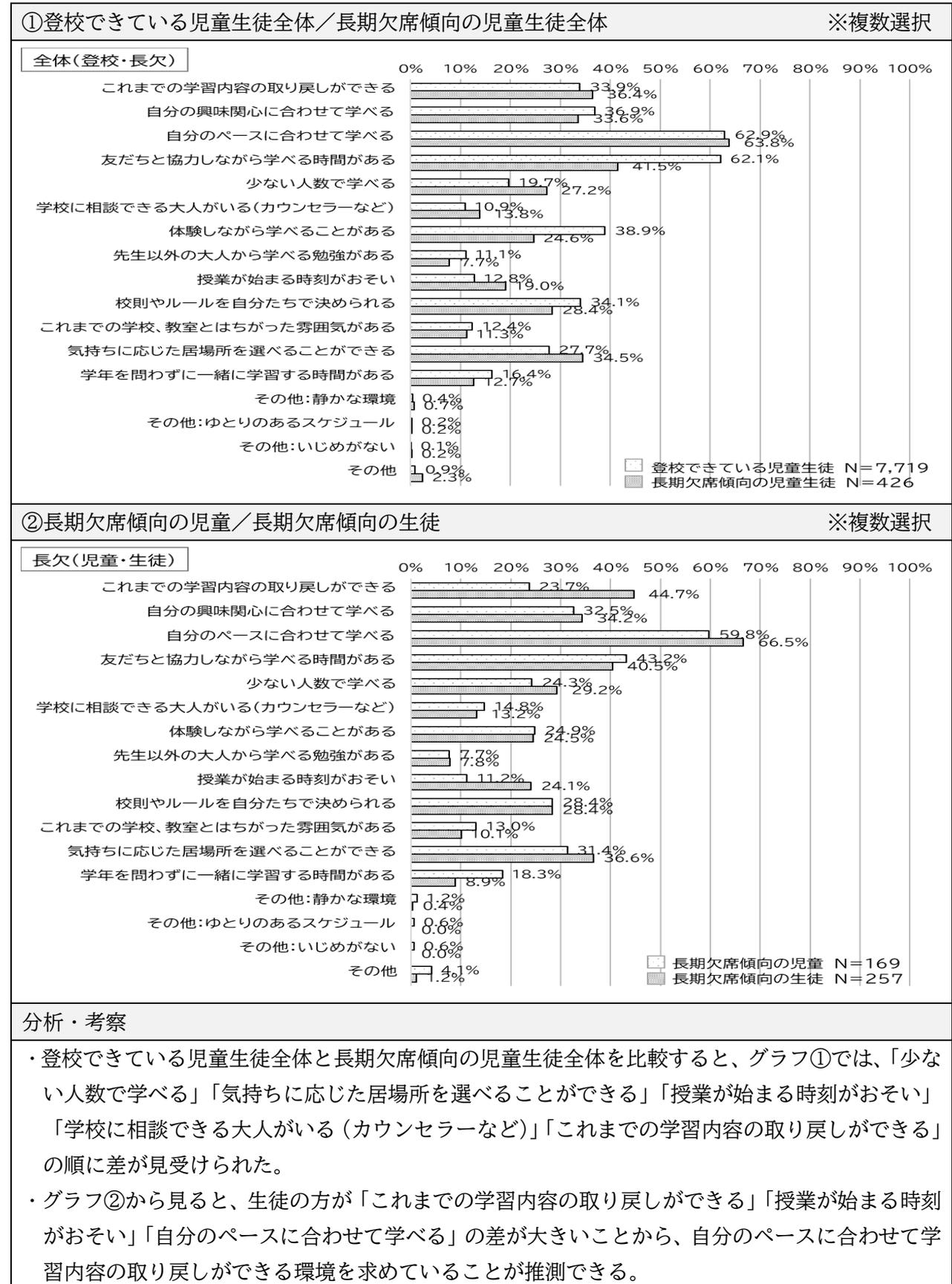
(一部抜粋)

- ・「不登校の理由は様々でその全てに対応することは難しいかもしれませんが、ただ学校は楽しい、学びたいと子どもが思える場所であって欲しいなと思います。」
- ・「勉強も大切ですが、それよりも社会性が身につけられる場になれば将来、集団生活に居辛さを感じにくいと思う。」
- ・「今回のアンケートで、多様な学びの場が作られていることや、子ども達一人ひとりが尊重されるような傾向に社会が改めて向かっていると感じました。昔ながらの一斉教育の良い面もあると思いますが、子ども達の興味や関心に合わせて、主体的に多年齢の中で学べるような場は、不登校等にかかわらず、今後さらに増えていくと良いのではと感じております。」
- ・「そういった場所があれば利用したいが、実際親が送迎してあげないと難しく、共働きで働いている家庭では利用ができないでいる。」
- ・「多様な学びの場の前に学校が居心地の良い場所になるよう先生以外にスタッフを配置してほしいです。」
- ・「学習したいと意欲が持てる場所の多様性が必要だと感じます。学ばせるのではなく、自ら選んで学ぶ、選択肢が多ければ多い程子供達のやる気や多様性の理解につながると思います。自由と責任、無意味な規則の撤廃が多様性の浸透に繋がり、生きづらさを感じる生徒の減少になるのではないのでしょうか。」
- ・「学校に行けない、行きたくない子ども達が、社会から疎外される事のない様、保護者だけでなく子ども達自身も、学校以外の選択肢がある事も知っておいて欲しいと思います。」
- ・「学校に通いづらくなる原因や理由は一人ひとり違うと思います。そのすべてのニーズに対応することは困難だとは思いますが、まずは相談できる窓口やより容易に情報を入手しやすくなれば良いと思います。」
- ・「ある日突然我が子が登校を渋る日が来るかもしれないのでこの様な場づくりを進めていただけるのは本当に有難いです。是非実現させていっていただきたいです。」
- ・「どのような理由で不登校になったとしても、不登校であることが自信喪失になったり自己肯定感が下がってしまう原因となることのないように逃げ場や自己肯定の場としての役割として校区関係なく通えたり、通信で学べる場所があることは大切だと思います。」
- ・「高校1年になる娘がいます。中3の時不登校になり、わかば教室に大変お世話になりました。今元気に高校に通っております。これもわかばでの生活があったからだと感謝しております。」
- ・「子供たちの学びの場が、もっともっと子供達一人一人の個性を大切にし、生かし伸ばす場所になればと思っています。多数決やみんなと一緒に無ければいけないという古い考え方を大切にするのではなく人と違って個性だと受け入れてくれる場所が増えたらいいなと思います。」
- ・「多様な学びの場が充実していくことを願います。家以外の、社会と関わる居場所があることは、子供の成長にとってとても大切だと思います。」
- ・「学校と同じ教室のような部屋ばかりでなく、アットホームな心の落ち着く雰囲気のある部屋があったらいいなと思います。」
- ・「集団行動や成長期に合わせた体験、環境は大切だと思います。個人を尊重しながらも学校に限らず成長に応じた学びの場があれば安心できます。出来れば学校で学んで欲しいので個人に合わせた登校、学びの場が学校があれば嬉しいです。」
- ・「多様な学びの場も大切だと思うが、どの子も通いやすい、学びたいと思う学校、学級づくりに、もう少し力を入れてほしい。」
- ・「このアンケートで知らない情報を知ることができました。」

## 6 アンケート結果より、新たな多様な学びの場における分析について【児童生徒及び保護者】

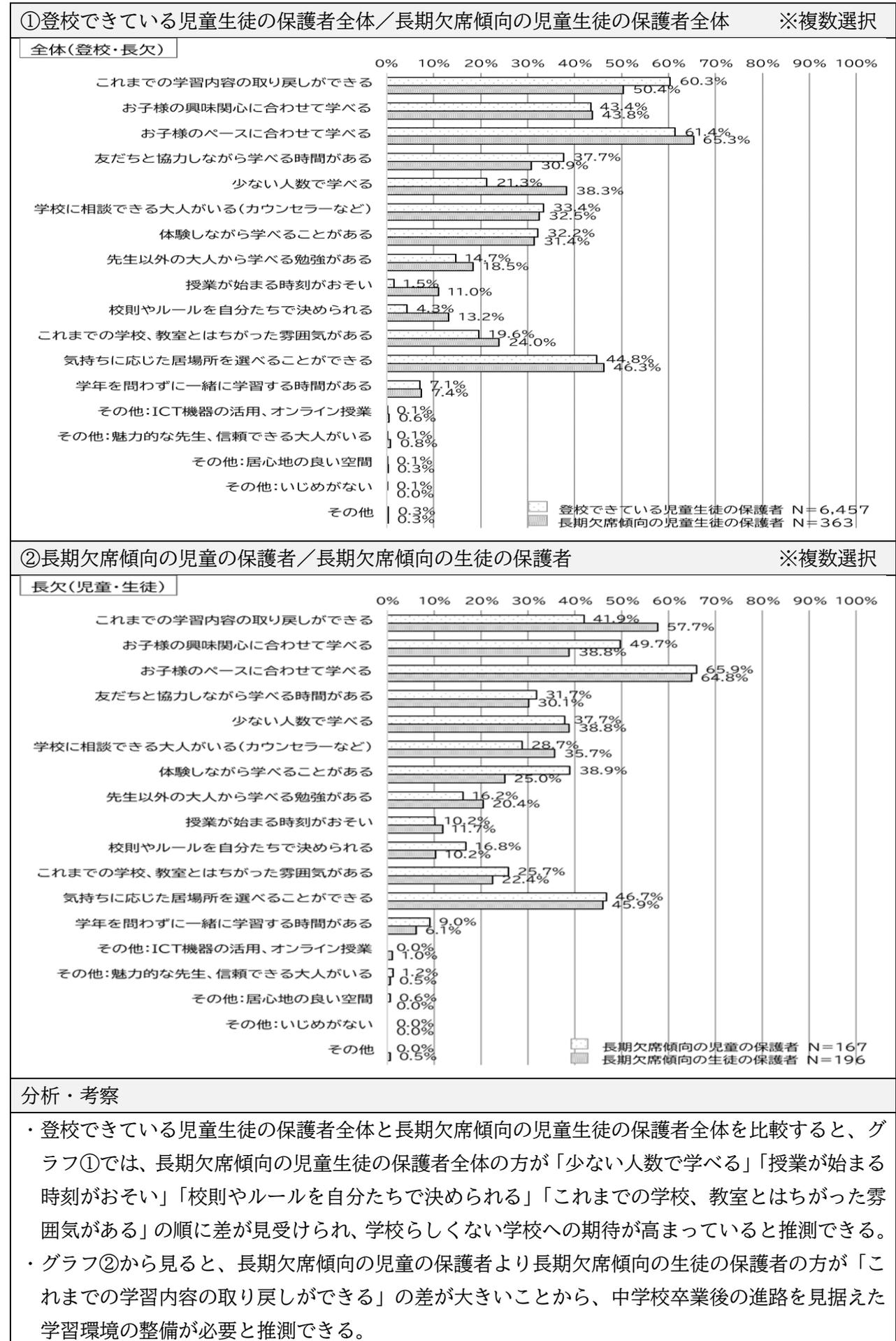
### 【児童生徒】

「あなたが楽しく安心して学習するために、どんな環境を求めますか。」の設問の分析と考察について



【保護者】

「子どもが別の学校で楽しく安心して学習するために、どんな環境を求めますか。」の設問の分析と考察について



### 【学びの多様化に係るアンケート全体を通じた考察】

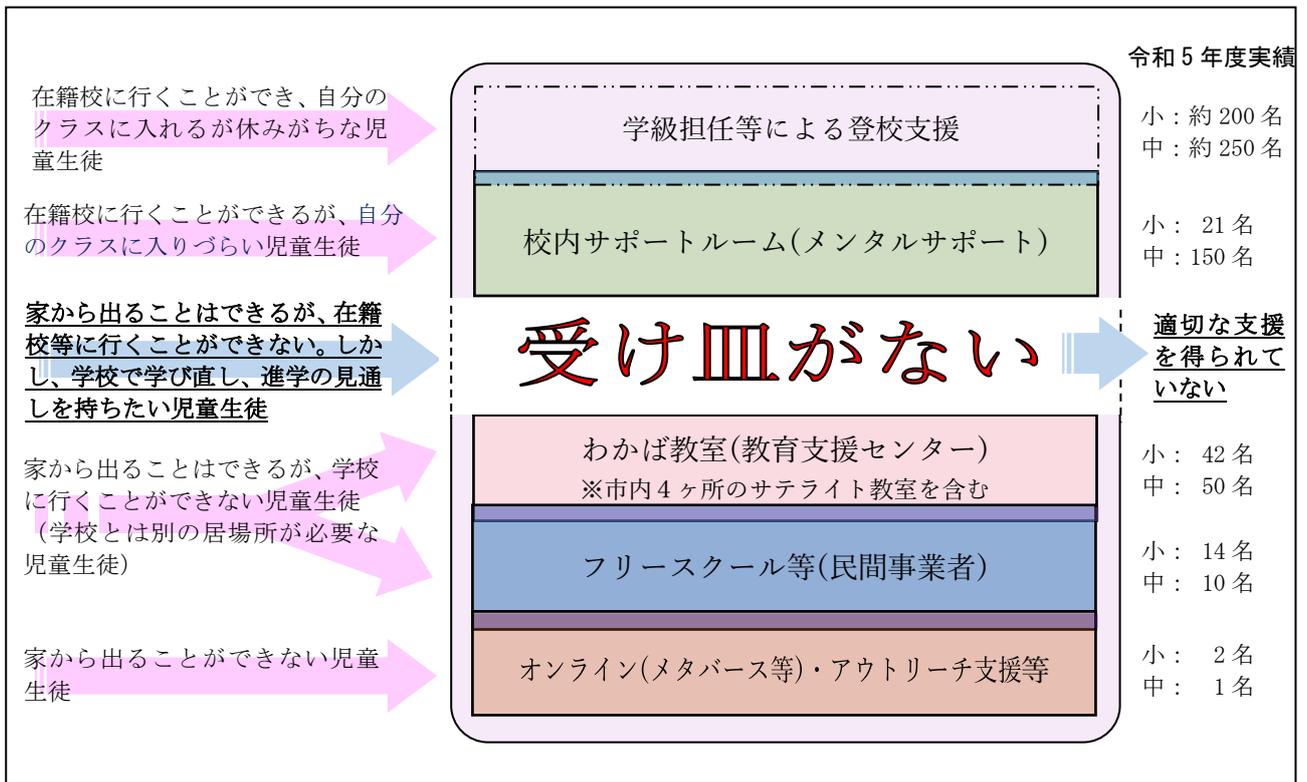
児童生徒対象のアンケート結果より、これまで本市が不登校対策として取り組んできた校内サポートルームの拡充を図るとともに、教育支援センター（わかば教室）を「より個に応じた柔軟な学習環境づくり」にも配慮する必要性が見えてきた。児童よりも生徒の方が、長期欠席傾向の要因に「学習」の要素が高まることも判明し、現在の本市の不登校対策では補完できてない部分が見えてきた。

また、保護者対象のアンケート結果より、新たな居場所となる環境づくりとして、児童生徒と同様、「より個に応じた柔軟な学習環境」と「相談体制の充実と周知」が求められていることが明らかとなった。児童保護者よりも生徒保護者の方が、長期欠席傾向の要因に「学習」の要素が高まることから、中学校卒業後の進路を見据えた学習環境の整備と、「学習」「体調」「進路」等複合的に相談できる体制づくりが重要ではないかと推測できる。

本アンケート全体を通して、「体調（起きられない、病気、けがなど）」「勉強（むずかしい、おもしろくないなど）」が登校しづらくなった主な要因であると考えられることから、長期欠席傾向の児童生徒は、「体調（起きられない、病気、けがなど）」「勉強（むずかしい、おもしろくないなど）」に配慮が必要であり、自分のペースに合わせて学習内容の取り戻しができる「より個に応じた柔軟な学習環境」などの学びの場を求めていることがわかった。

今後は、校内サポートルームやわかば教室についての周知や体制整備はもとより、現在の本市の不登校対策では補完できていない部分として、児童生徒の「学びのリスタート」の機会が得られるような新たな不登校対策が求められていると考える。

【現在の本市不登校対策の体制図】



R5 不登校 (全体)  
小： 279 名  
中： 455 名

参考：令和5年度 不登校児童生徒に係る基礎データ

(1) 不登校率の推移(全国・兵庫県・加古川市の比較)

(%)

【小学校】

年度(平成)	26年	27年	28年	29年	30年	R01年	R02年	R03年	R04年	R05年
全国不登校率	0.39	0.43	0.47	0.55	0.70	0.84	1.01	1.32	1.72	未確定
県不登校率	0.27	0.32	0.38	0.52	0.65	0.82	1.01	1.32	1.80	未確定
加古川市不登校率	0.27	0.37	0.39	0.46	0.53	0.58	0.74	1.20	1.75	2.11

【中学校】

年度(平成)	26年	27年	28年	29年	30年	R01年	R02年	R03年	R04年	R05年
全国不登校率	2.76	2.95	3.14	3.38	3.81	4.12	4.30	5.26	6.27	未確定
県不登校率	2.57	2.83	3.15	3.63	4.30	4.62	4.91	5.82	7.06	未確定
加古川市不登校率	2.13	2.37	2.41	2.89	3.55	4.24	4.78	5.98	6.50	6.59

(2) 加古川市内の長期欠席及び不登校の実数の推移

(人)

【小学校】

年度(平成)	26年	27年	28年	29年	30年	R01年	R02年	R03年	R04年	R05年
長期欠席	149	171	173	173	179	175	206	377	467	562
内、不登校	40	54	57	67	77	83	105	166	236	279

【中学校】

年度(平成)	26年	27年	28年	29年	30年	R01年	R02年	R03年	R04年	R05年
長期欠席	312	307	323	351	384	397	419	620	659	692
内、不登校	172	187	185	210	251	294	333	414	453	455

(3) 令和5年度 学年別不登校児童生徒数(令和6年3月末現在)

(人)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計	合計
長期欠席	60	82	72	92	122	134	562	180	252	260	692	1,254
内、不登校	28	33	33	44	70	71	279	117	157	181	455	734

文部科学省「学校基本調査一用語の解説一」

- ・長期欠席者とは、前年度間に30日間以上欠席した者。欠席は連続である必要はない。
- ・不登校とは、病気や経済的理由以外の何かしらの理由で、登校しない(できない)ことにより長期欠席した者。